

「桑F₁系統」枝黄伏せによる桑園造成法

農業研究センター 農産園芸研究所 蚕業部

研究のねらい

本県の養蚕は、作目選択幅の狭い中山間地帯における主要な換金作物として定着しているが、土地生産性は向上せず、省力化も進んでいない。そこで、生産性の高い多収技術(繭200kg以上/10アール)と省力化技術の開発が望まれている。

これらのことから、九州農業試験場で育成され、超密植・機械化に適するといわれている「桑F₁系統」実生苗を用い、草本化桑園造成による省力・多収多回育養蚕技術の体系化を試みた。

しかし、実生苗による造成は、栽植本数が多くなるため、造成能率の低くなる点が問題となった。そこで、枝黄伏せ法による造成能率の向上対策を検討した。

研究の成果

- (1) 黄伏せ用枝の採取時期は、1月から3月まで可能である。
- (2) 枝の太さは、太いものほど発条数及び収量も多い。
- (3) 伏込み初年目から、慣行桑園を上回る収穫量が可能である。
- (4) 枝黄伏せの伏込み距離は、畦間70cmに2本伏せが機械収穫上好ましい。
- (5) 用いる枝は、側枝の少ない充実した個体を選ぶ。
- (6) 伏込みは、5cmの深さを目安とする。伏込み時の覆土が浅いと、台風等で根の隆起をみる場合がある。
- (7) 発条初期に、雑草およびネキリムシの防除に留意する。

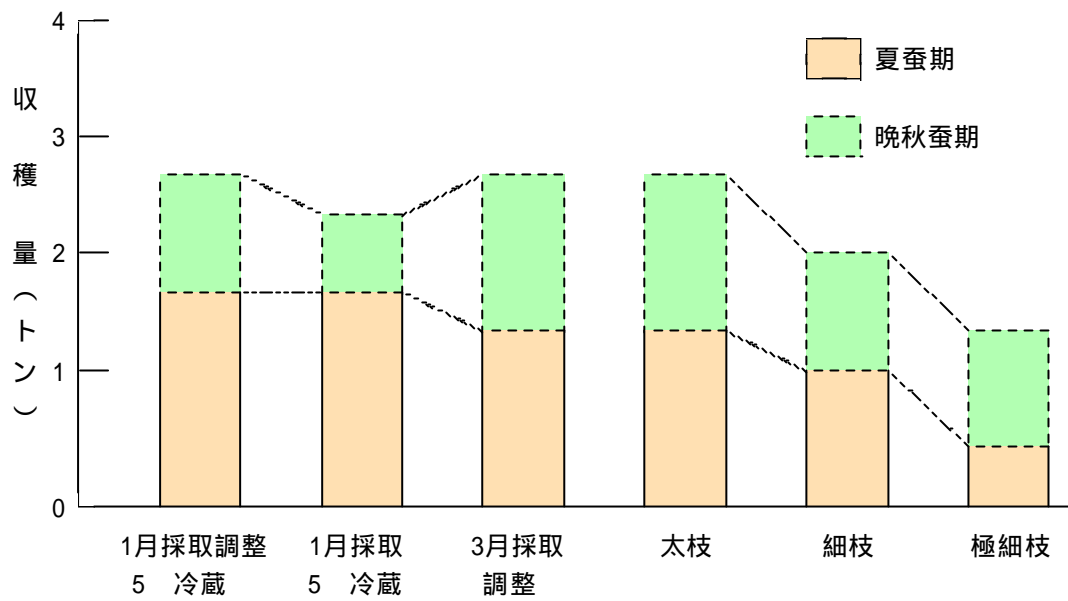


図1 枝横伏せの条件と収量(10アール・1年目)



写真1 枝伏込み前の状況



写真2 枝伏込みほ場の初期生育